

世界で輝け!!

国スポ選手選出

男子サッカー部

一年一組 大下蒼生

愛知県選抜選手としてミニ国体(東海ブロック)に出場した。岐阜県選抜に1-0で勝利をし、国スポへの出場を決めた。彼はスピードを生かしたドリブル突破と正確なキックが武器に得点アシストを量産する。愛知の代表として、豊川高校の代表として、昨年度の結果を超えられるように一杯頑張りたいと話していた。



登山部

一年九組 中田凱斗

中田凱斗は中学よりユースの全国大会に出場しており、春休みの練習会から1日練習を中心に取り組んできた。4月27日28日に行われた国スポ愛知県予選会において1日目リード競技では同率2位(ポイント30)、2日目ボルダール競技3位(ポイント30)で終了。春日井西の選手は1日目リード競技4位ポイント30となり、中田はポイント30となる。最終成績はポイントの乗数になり、中田はSAGA国民スポーツ大会の出場を決めた。



水泳部

豊川の名を全国・世界へ

全国総体アベック優勝

ほぼ全員誕生日が来ていなかっただけで、今大会は男子豊川高、女子大藤沢高校が優勝すると予想されていた。男子は初日から複数名が全国チャンピオンとなり全員が大きな取りこぼしもなく想像以上の結果を残し、結果的には2位に大差をつけての圧勝であった。女子は3日目まで2位と1点差の大接戦でプレッシャーのかかる重要な場面において自己ベスト更新やタッチ差での勝負をものにして小さな1点を積み重ねた結果、大方の予想を大きく覆して優勝を勝ち取った。男子は2016年以來8年ぶり6回目、女子は2021年以來3年ぶり5回目の優勝を飾り男女アベック優勝を飾った。



東海大会では好記録が連発し、いい波に乗り最高の状態でインターハイに望むことになった男子はエースの西川が不在であったが他チームでも主力級の選手が多数揃っていた。女子は昨年より6名少なく少人数で絶対的エースがない中で全員で1点を積み重ねて勝ちに行くチームであった。男子は8年ぶり、女子は昨年度まで2連覇をしていて今大会大本命の日大藤沢に勝って男女アベック優勝を狙い準備を重ねてきた。続いて夏季JOC、インターハイと同等の全国大会、インターハイが終わり2日後から始まるためタフな選手が勝ち残る大会で6月までに多くの選手が標準記録を突破し出場を決めていた。インターハイに引き続き全員が満身創痍の中豊川高校らしいタフさで好成績を残した。団体では10歳以下(18歳以下無差別)区分までの合計得点で得点を競うため本校としては区分別15-16歳区分の優勝を目指していた。※2年生が



SLYっや、最高の舞台へ

ダンス部

「第14回全日本高等学校チームダンス選手権 決勝大会」7月21日、安城市民文化会館で行われた中部予選で4位となり、決勝大会進出を果たした。ダンス部は高体連・高文連のどちらにも属さない新しい部活動であり各協会が主催する様々な大会がある。今年の夏は4つの大会に挑戦した。その中でも、この大会はストリートダンスに重点を置いた審査がされる大会で昨年初めて決勝大会に進出した。決勝進出は中部大会で4校のみ。部長を中心にチーム力で作品の完成度をあげ、決勝進出を勝ちとった。決勝大会は8月31日(土)静岡で行われる予定だったが、台風の影響で中止となり、9月21日(土)北九州レイコホールで代替大会が行われる。チーム名「SLY(スライ)」。男子1名、女子10人の合計11人のチーム。部長の中から選抜テストを勝ち抜いたメンバーで構成されている。久保田利伸の曲を用いて「音の嗜み」を意識した作品。嗜みとは好み・能力・作法を併せ持つもの。ただダンスを踊るだけでなく、よい作法、心構えで踊り、その中に自分らしさを表現し、音を味わうことを大切に取り組んだ。目標は決勝大会で結果を出すこと。しかし、一度「中止」の発表があった決勝大会であり、まさかの中止に涙を流した。踊れる先生方のご尽力で代替大会の開催が決まった。決勝の舞台で踊れることに感謝してこれまで練習してきた成果を踊りに込めていきたい。3年生にとってはこれが最後の大会となる。最高の舞台でとかくダンスを楽しんでほしい。

